



4 えちがわ 愛知川ふれあい本陣
(旧近江銀行愛知川支店)

本陣の跡地に明治27年大阪設立の近江銀行愛知川支店が出店し、昭和2年まで営業していました。現在の建物は、大正15年に鉄筋コンクリート1階建てで新築がされたものです。



8 たけへいろう 竹平橋

愛知川にかかる御幸橋を渡ってすぐの場所に、宝暦8年(1758年)に旅籠屋「竹の子屋平八」として創業し、現在も料理旅館を営む竹平橋があります。明治11年の天皇巡幸の際に新築された御座所は国の登録有形文化財となっていて、正面玄関の西側に記念碑が建てられています。



9 しょうやとう 常夜灯

1845年2月成宮弥次右衛門(酒蔵業)・中田清次郎・中村太郎右衛門らが世話役となり旅人の目印、強盗、野良犬、キツネ除けのため設置された。

ぎおんじんじや 祇園神社

もとは愛知川宿の本陣あたりの八幡神社の近くに牛頭天王社として鎮座していましたが、愛知川の渡河安全のために1838年に河畔に遷座して祇園社と改称したとされています。

6 ふじわらのふひと 藤原 不比等の墓

藤原不比等は、天智天皇から藤原氏の姓を賜った藤原鎌足の子であり、飛鳥時代から奈良時代初期にかけての公卿。文武天皇2年(698年)には、不比等の子孫のみが藤原姓を名乗り、太政官の官職に就くことができるとされています。また、『竹取物語』でかくや姫に求婚する5人の貴公子の1人車持皇子のモデルは不比等という説もあります。

10 みゆきばし むちんばし 御幸橋・無賃橋

明治11年に明治天皇が巡幸に際して新たに馬車が渡る橋として架け替えられました。さらに、大正15年に鉄筋コンクリートの橋になり昭和36年8号線完成時にも架け替えられています。

無賃橋とは

愛知川は人取り川とも呼ばれ、よく荒れる川でありました。比較的水量の少ない時は、仮橋(勧進橋)が架けられて渡り金を払って渡ることができ、これを愛知川宿と小幡村が管理していました。1831年(天保2年)になると長さ29m橋がかけられ、渡り賃を取らないことから無賃橋と呼ばれました。



あ えちがわきょうりゅう 愛知川橋梁

1898年(明治31年)に作られた五箇荘駅と愛知川駅の間にかかる鉄橋。現存する明治後期の鉄道用トラス橋としては滋賀県唯一のもので、開業以来100年以上経過した現在もお現役として使用されている貴重な歴史遺産です。(国登録有形文化財)

い ほりかわせどうどう みなみせどう 堀川地藏堂(南地藏)

土地の境界を示す地藏で、旅の安全を祈願し、北の部分け地藏に対して宿場南付近に置かれています。

う といやば 問屋場

旅人の人馬の継ぎを行い駕籠の手配をしていました。3人1交代制が基本でしたが、2人の時もあったとされています。



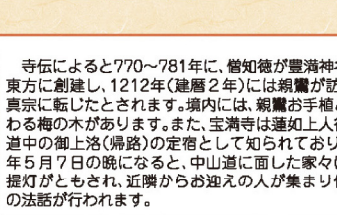
11 だいにちどう 大日堂

豊満寺が真言宗から真宗に転じたとき、真言宗の本尊であった大日如来もこの地に移し、大日堂を立てたとされています。



5 ほうまんじ 宝満寺

寺伝によると770~781年に、智徳が豊満神社の東方に創建し、1212年(建暦2年)には頼朝が訪れ、真宗に転じたとされます。境内には、親鸞お手箱と伝わる梅の木があります。また、宝満寺は蓮如上人御影道中の御上洛(帰路)の定宿として知られており、毎年5月7日の晩になると、中山道に面した家々には提灯がともされ、近隣から迎えの人が集まり俗侶の法話が行われます。



17 れんせんじ 蓮泉寺

蓮泉寺は愛荘町宿にあり、聖観音菩薩像を本尊とする曹洞宗の寺院です。元は天台寺院であったと考えられており、『永興山蓮泉禅寺本尊縁起』には、本尊聖観音菩薩像は行基の作で琵琶湖より鳥の背に乗って現れたとあります。彦根藩士 井伊直孝の命により建立・遷座され、「曹洞宗蓮泉寺」と改められました。

え こおりわけせどうどう 郡分地藏堂

愛知川村の神崎郡と愛知郡中宿村の境にあったため、郡分地藏堂と呼ばれた。明治14年に愛知・神崎郡役所が寶満寺に作られた後愛知川は愛知郡に編入しました。

お うそがわ 宇曾川

湖東平野を経て琵琶湖に注ぐ宇曾川は、古くから水量豊富で舟運が盛んであったために「運漕川」と称していたが、時の流れと共に転訛して「うそ川」と呼ばれるようになったという。

18 かわわきじんじや 河脇神社

愛知川の上流の御河辺神社、下流の河桁神社(彦根市出路)と合わせて水害から守る三社として中宿村に鎮座しました。愛知川は元々この河脇神社の辺りを通っていましたが、現在に比べると900mほど移動しています。



20 いしべじんじや 石部神社

石部神社は、天照大神・天日方奇日方命・大名半運命の三座を祭神とし、社伝によると崇神天皇(スジノ)7年3月(前90年)の創祀と伝えられています。天照大神神を大和笠織村から伊勢五十鈴川川上に奉遷される途中に半年間、当社に奉安されたことにより元伊勢の石部宮と称し、郡内では2社の式内社として「延喜式神名帳」に名を連ねている。

21 やまつかごふん 山塚古墳(将門塚)

山塚古墳とも呼ばれる円墳で、将門の首塚とも塚ともいわれ、頂上部に将門を祀る祠がある。高さ4.3m直径25mの大型の高円墳です。5世紀末から6世紀(白鳥時代)の築造と想われます。*立入は、ご遠慮ください。

22 うたづめばし 歌詰橋

中山道の宇曾川に架かる将門伝説の橋で、将門を討って都に上がる俊藤大秀郷に突然将門の生首が懸い掛かり、秀郷は首に向かって、歌を一首といい歌に詰まった首が落ちたとの伝説から歌詰橋と呼ぶように、元々は土橋で丸土と土で作られていました。

中山道周辺をボランティアガイドと一緒にまち歩きしてみませんか?

- ・ガイドの申込を希望される方は2週間前までに申込書のご提出をお願いします。
- ・ガイド1人につき交通費として1,000円(1回当日徴収)を申し受けます。*新型コロナウイルス感染症対策のため、10人に1人のガイドを目安としています。
- ・案内中の交通費や有料施設については実費をご負担ください。

お問い合わせ▶愛荘町観光ボランティアガイド協会(事務局:愛荘町商工観光課) TEL:0749-37-8057 FAX:0749-37-4444

